

食料農業経営科 栽培コース 教育ポリシー

アドミッション・ポリシー

《学校》	《学科》
①食・農・緑のプロフェッショナルを目指す意欲のある人	① 学ぶことに探求である人
②選んだ道に自信を持って前に進む強い意志のある人	② 授業・実習など積極的に取り組める人
③他者や地域社会との交流に積極的な人	③ 将来農業分野・農業業界を志す人
④	④ 節度を持って他者とのコミュニケーションが図れる人

カリキュラム・ポリシー

基礎科目・基礎実習の習得

1
年
前
期

達成目標

- ① 基礎科目を中心に栽培理論を理解する。
- ② 総合実習を通し、農作業の基礎を身につける。
- ③ 栽培実習で現場作業を理解する。
- ④ 生産だけでなく経営のやり方の基礎も身につける。
- ⑤ PCツール（Excel）の基礎的な操作方法を理解する。

主な履修科目	履修内容
農業基礎論	農業学習の基礎。基本を理解し学生の基盤を習得する。
農業基礎総合実習	野菜栽培を中心にを行い、植物の生育過程など基礎的な知識・技術を習得する。
水稲・野菜・果樹栽培実習Ⅰ	外部連携農家の指導の下、現場感覚の基礎を習得する。
農業経営	簡単な財務分析など営農した時に必要な知識を習得する。
OA実習	Excelの基礎操作および簡易的なグラフ作成技術を習得する。

栽培技術の基礎固めと2年次への準備

1
年
後
期

達成目標

- ① 各種作目の特徴・生理を理解し、2年次へのステップアップを目指す。
- ② 栽培実習を通し、栽培サイクルや現場感覚をさらに高め基本をマスターする。
- ③ 各種資格取得を目指す。（農業技術検定 / 簿記能力検定 / Excel検定 etc...）
- ④ 営農を見据えた経営ビジョンがたてられる。
- ⑤ 営農を見据え、どんぶり勘定にならないように経理管理が理解できる。

主な履修科目	履修内容
野菜栽培学・作物栽培学	各種作目の特徴および生理の知識を習得する。
水稲・野菜・果樹栽培実習Ⅰ	外部連携農家の指導の下、さらに現場に近い感性を習得する。
各種検定対策	各検定の概ね2週間前より実施。より深く知識を学び、該当資格を習得する。
アグリビジネス論Ⅰ	栽培計画～収穫目標・販売までの事業計画などの作成知識を習得する。
農業簿記基礎	商業簿記をベースに経営管理の基礎理論を習得する。

2
年
前
期

1年次の栽培知識・技術の応用と栽培以外の技術

- 達成目標**
- ① 1年次に身につけた栽培の基礎知識・技術を活用した取り組みができる。
 - ② 通年を通して農業業界の現場感覚を獲得できる。
 - ③ 農業を取り巻く法律・法令が理解できる。
 - ④ 農業機械の簡易的な整備および日常点検レベルはできるようになる。
 - ⑤

主な履修科目	履修内容
プロジェクト実習Ⅰ	模擬農家経営を行い、果菜類を中心に「栽培計画～収穫・販売」までの実践経験スキルを習得する。
農業経営体派遣実習Ⅰ	外部連携農家・農業法人等の指導の下、通年作業のサイクル・現場感覚を習得する。
農業法規	農業関連法などを学び、農業経営者に必要な基礎的な知識を習得する。
農業機械	機械の構造の理解をし、自ら整備・点検が行える知識・技術を習得する。

2
年
後
期

より現場（営農）に近い感性の育成

- 達成目標**
- ① 冬季に向けた野菜栽培の計画および感覚を養うことができる。
 - ② 通年を通して農業業界の現場感覚・作業内容を理解できる。
 - ③ 6次産業化を見据え、規格外の物など利用し自ら加工が行える。
 - ④ 農産物販売を優位に進めるための消費者購買プロセスが理解できる。
 - ⑤

主な履修科目	履修内容
プロジェクト実習Ⅰ	模擬農家経営を行い、葉菜類を中心に「栽培計画～収穫・販売」までの実践経験スキルを習得する。
水稲・野菜・果樹栽培実習Ⅱ	外部連携農家・農業法人等の指導の下、通年作業のサイクル・現場感覚を習得する。
食品加工実習Ⅰ	規格外品（廃棄農産物）を出さない工夫や、加工による付加価値をあげるの知識・技術を習得する。
マーケティング	消費者の購買行動・ニーズなどを理解し農産物を販売するために必要なマーケティングの基礎知識を習得する。

ディプロマ・ポリシー

- ① 作物の生理を理解し、各品目において適切な栽培ができること。
- ② 生産者視点のみならず、経営者視点をもって業界をみるができること。
- ③ 農業関連法などおいしい情報の裏を理解し、世論に振り回されない観察眼がもてること。
- ④ 狭いコミュニティ（農村）の中や就職先で、やり続けていける継続力・コミュニケーション力がもてること。
- ⑤ 慣行栽培・自然栽培のいい面を自分自身で精査し、営農に活かすことができること。
- ⑥ 生産（栽培）の現場において、作物の変化・環境の変化を察知することができること。
- ⑦ よりコストを抑えた経営計画を自ら作成することができること。
- ⑧ 生産業・加工業・流通販売業。ありとあらゆる立場から農業業界を支える存在になることができること。